



2022年6月14日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 A B & C o m p a n y  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 市 瀬 一 浩  
 (コード番号：9251 東証グロース)  
 問 合 せ 先 取 締 役 C F O 経 営 管 理 本 部 長  
 永 島 光  
 TEL. 03-4500-1383 (代表)

## 2022年10月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2022年10月期決算公表時(2021年12月15日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

### 1. 業績予想の修正について

2022年10月期通期連結業績予想値の修正(2021年11月1日～2022年10月31日)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想 (A)	百万円 13,464	百万円 2,207	百万円 2,106	百万円 1,383	百万円 1,383	円 銭 93.58
今回修正予想 (B)	12,031	1,312	1,226	830	830	56.13
増減額(B-A)	△1,432	△894	△880	△553	△553	
増減率(%)	△10.6%	△40.5%	△41.8%	△40.0%	△40.0%	
(ご参考)前期実績 (2021年10月期)	10,911	1,514	1,414	941	941	63.87

### 2. 修正の理由

#### ①売上収益

2021年12月15日に公表しました業績見通しに関しては新型コロナウイルス感染症の影響が多少和らぎ、当社の主要KPIである「スタイリスト当たり顧客数」が一定程度回復する想定で策定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により同KPIの推移が想定を下回る見込みとなりました。オミクロン株による感染波は感染者数の絶対数が非常に多かったことから、お客様側の事情のみならず、当社スタイリスト側の各種事情(スタイリスト並びに同ご家族の感染、保育・教育機関の閉鎖等)により店舗運営体制にも大きな影響が発生いたしました。

加えて、出店環境の悪化から新規出店に対しても計画に対して遅れが発生いたしました。

以上より、売上収益を12,031百万円(前年同期比10.3%増、前回予想比10.6%減)に修正いたしました。尚、セグメント別の内訳に関しては直営美容室運営事業が9,144百万円(前年同期比7.4%増、前回予想比10.6%減)、フランチャイズ事業が1,375百万円(前年同期比22.1%増、前回予想比6.4%減)、インテリアデザイン事業が1,512百万円(前年同期比19.3%増、前回予想比14.2%減)となります。

#### ②営業利益、税引前利益、当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益

①のとおり、「スタイリスト当たり顧客数」が想定を下回り、1店舗あたりの採算が悪化したこと及び新規出店が遅れたことに加え、資産除去債務の見積変更に伴う減価償却費の増加(前回予想比94百万円増)や株主優待の導入に伴う引当費用の増加(前回予想比35百万円増)、水道光熱費のコスト増加(前回予想29百万円増)等により販管費が増加する見込みとなりました。

以上より営業利益を 1,312 百万円（前年同期比 13.3%減、前回予想比 40.5%減）、税引前利益を 1,226 百万円（前年同期比 13.3%減、前回予想比 41.8%減）、親会社の所有者に帰属する当期利益を 830 百万円（前年同期比 11.7%減、前回予想比 40.0%減）に修正いたしました。

今回業績修正の主要因となった「スタイリスト当たり顧客数」について、下期も新型コロナウイルスが上期の水準からほぼ回復しない前提で策定しております。

2022 年 6 月 14 日付開示の「当社連結子会社による株式取得（孫会社化）に向けた基本合意書締結のお知らせ」による 2022 年 10 月期業績に与える影響は軽微であるため、織り込んでおりません。一方で翌期である 2023 年 10 月期においては売上収益で 37 億円程度、営業利益で 1.4 億円程度、EBITDA で 2.9 億円程度の増加インパクトを見込んでおります。

詳細については本日付けで開示しております「2022 年 10 月期業績予想修正想定 Q&A」をご参照ください。

以上